

前穂高岳 東壁 【北壁-Aフェース】

2016/9/10～12

メンバー：谷嶋(L)、小濱(記録)

B沢を 足元で割る 岩雪崩

小濱

スタンスに 積もる岩屑 胸騒ぎ

谷嶋

この動作 未知のルートと 悅りけり

谷嶋

○ 9/10 終日快晴

沢渡(5:40) 上高地(6:30) 奥又白池(11:30) C沢偵察後に奥又白池泊

久々にザックの重みを感じながら、徳沢までの歩道を歩く。穂高の裾野は黄色く色づき始めていて、上高地は秋の気配を感じさせる。

奥又白へ進む道とパノラマ新道との分岐に差し掛かる。前冬の雪の少なさが影響しているのか、沢の水量はかなり少なく水を汲むことが出来ない。池までは奥又白谷の左岸稜線を上がっていく。運動不足の小濱はここでバテバテになる。谷嶋さんも体調不良。初日は岩壁でビバークの予定だったが、奥又白池で体力回復に努めることにした。

池からは明日登る東壁や4峰正面壁が良く見える。ルートを想像するには事欠かない。

奥又白池の水は綺麗で、多少虫が浮いてはいるが、煮沸すれば問題なく飲める。谷嶋さんは生で飲んでいた。さすがである。

○ 9/11 終日くもり

奥又白池(6:30) C沢基部(7:40) 北壁取り付き(10:20) 前穂山頂(15:30) 岳沢小屋(18:30)

寝坊した。

アプローチでは雪渓が全くなかったので、本谷から直接C沢基部を目指す。本谷へは明瞭な踏み跡有。C沢下部では3級程度のクライミングになる。浮石が非常に多くロープが出せない。C沢を詰め上がり、左手のインゼルに上がると懸垂支点有。B沢へ下降する(20M程度)。B沢のガレは小濱の経験上では最悪レベル。谷嶋さんの言葉を借りれば、石の本気度が違う。足元で崩れるB沢をひたすら上がり、Dフェースの基部近くまで行くと、左壁に何となく取り付けそうな場所有。

ルート上は浮石が多く落石注意。残置は豊富。斜面を覆う砂のザレをキックステップして、「この雪、悪いな！」などと毒づきながら進む。Aフェース上部でハング下の支点から垂れるロープに会合する。

これをドラマルートと名付ける。谷嶋さんはドラマ左ルートを登る。恐らくルートを間違える。2か所ほどレイバック＆スマアで怪しく切り抜ける。

全8ピッチで前穂山頂にダイレクトで出る。最高に気持ちがいい。

明日は雨の予報なので岳沢へ下山する。夜の帷が落ちた岳沢小屋のテラスで、BAR 岳沢を開き一日を振り返った。

○ 9/12 曇りのち雨

岳沢小屋(5:30) 上高地(6:45) . . . 回り目平

寝坊しなかった。サクサクと下山する。天気が保っているので小川山へハシゴした。

使用したギア

50M シングルロープ(9mm)×1 キャメロット 0.2~1 ハーケン、ナッツ 少し

以下、写真



奥又白池より前穂東壁



C沢 基部



3ピッチ目 背後にDフェース



6ピッチ目 ハングの下で



前穂山頂にダイレクト！！